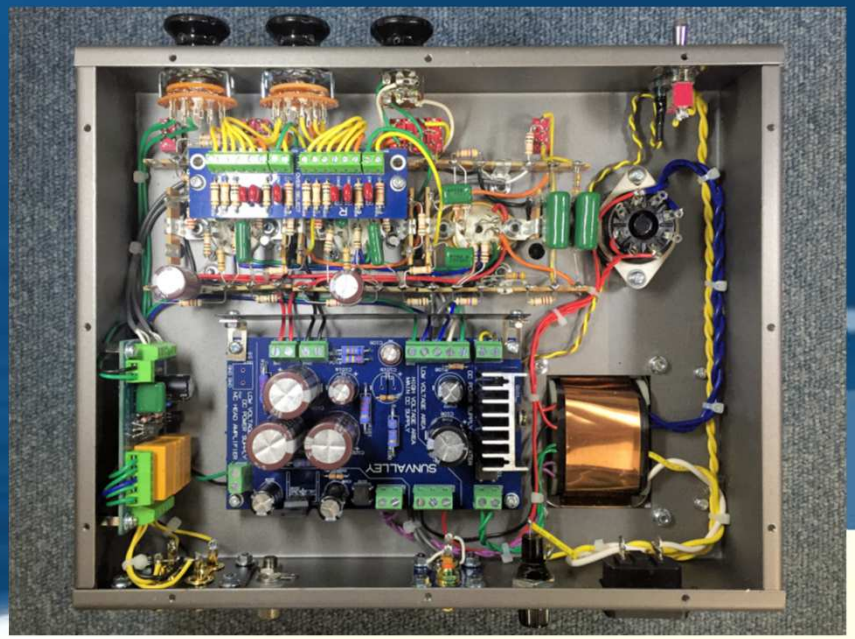
SV-EQ1616D 使いこなしガイド

Ver.1.3(2020/3)



SV-EQ1616D 仕様

SUNVALLEY AUDIO

・回路形式:CR型フォノイコライザー

・入力:2系統

・出力:1系統(MONO(L) / STEREO切替可)
※MONO(Lチャンネル入力)→L/Rデュアル出力

・対応カートリッジ:MM(47kΩ),MC(20～50Ω)

・MC昇圧:FETヘッドアンプ

・ゲイン:MM35dB,MC+22dB
※ゲイン LOW切替可
(-4dB/MM, -2.5dB/MC)

・真空管:増幅段:12AX7(2),カソフォロ段：12AX7,12AU7,12AT7から任意に選択可

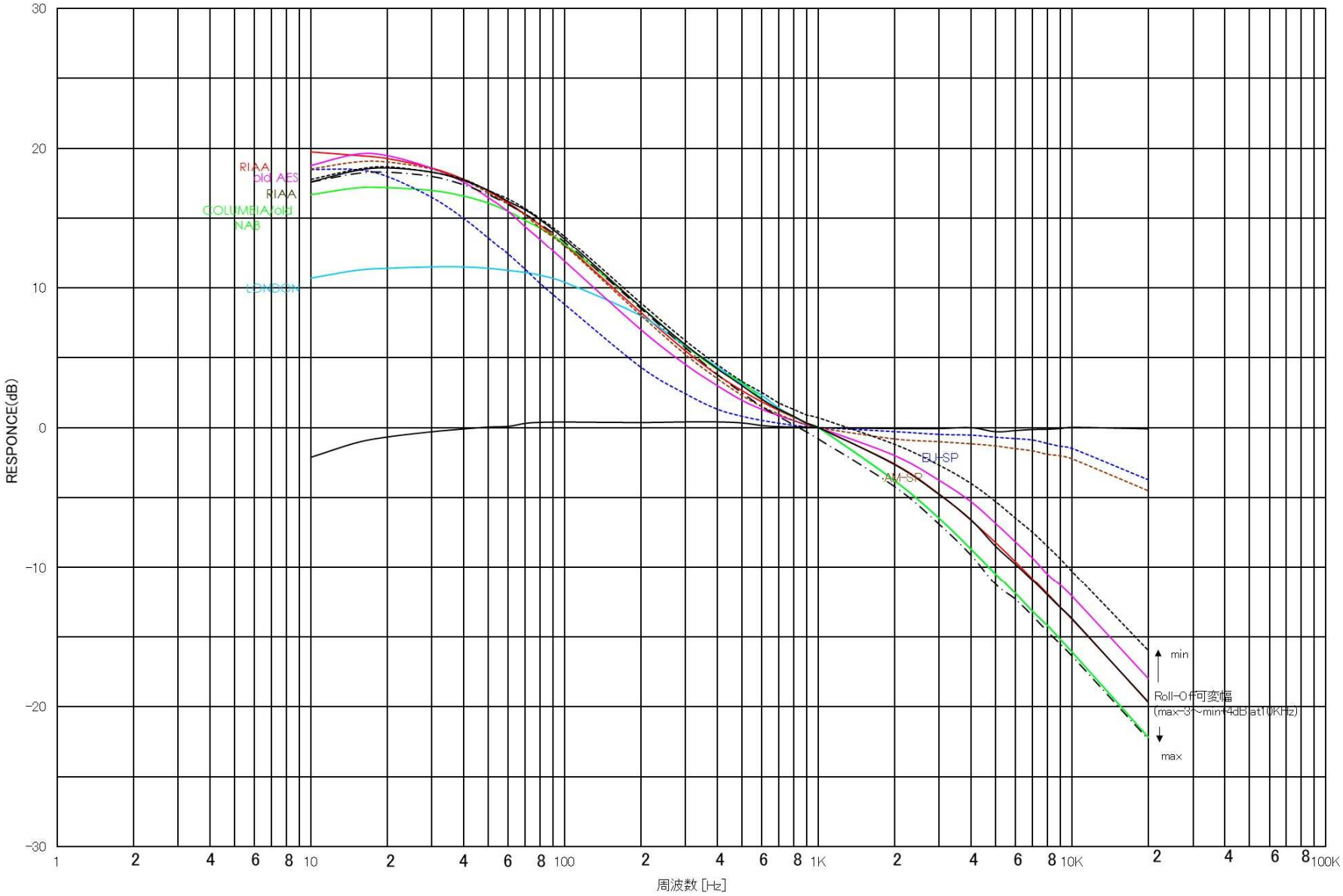
・整流器:標準/ダイオードモジュール,
オプション/各種整流管(5AR4,274B,5R4,5U4,5Y3使用可)

・ターンオーバー周波数調整:切替式
(RIAA, old AES, COLUMBIA/old NAB, LONDON,EU系SP盤,
US系SP盤等に対応)
※ターンオーバー周波数だけでなく低域特性も各EQカーブに合わせて同時可変

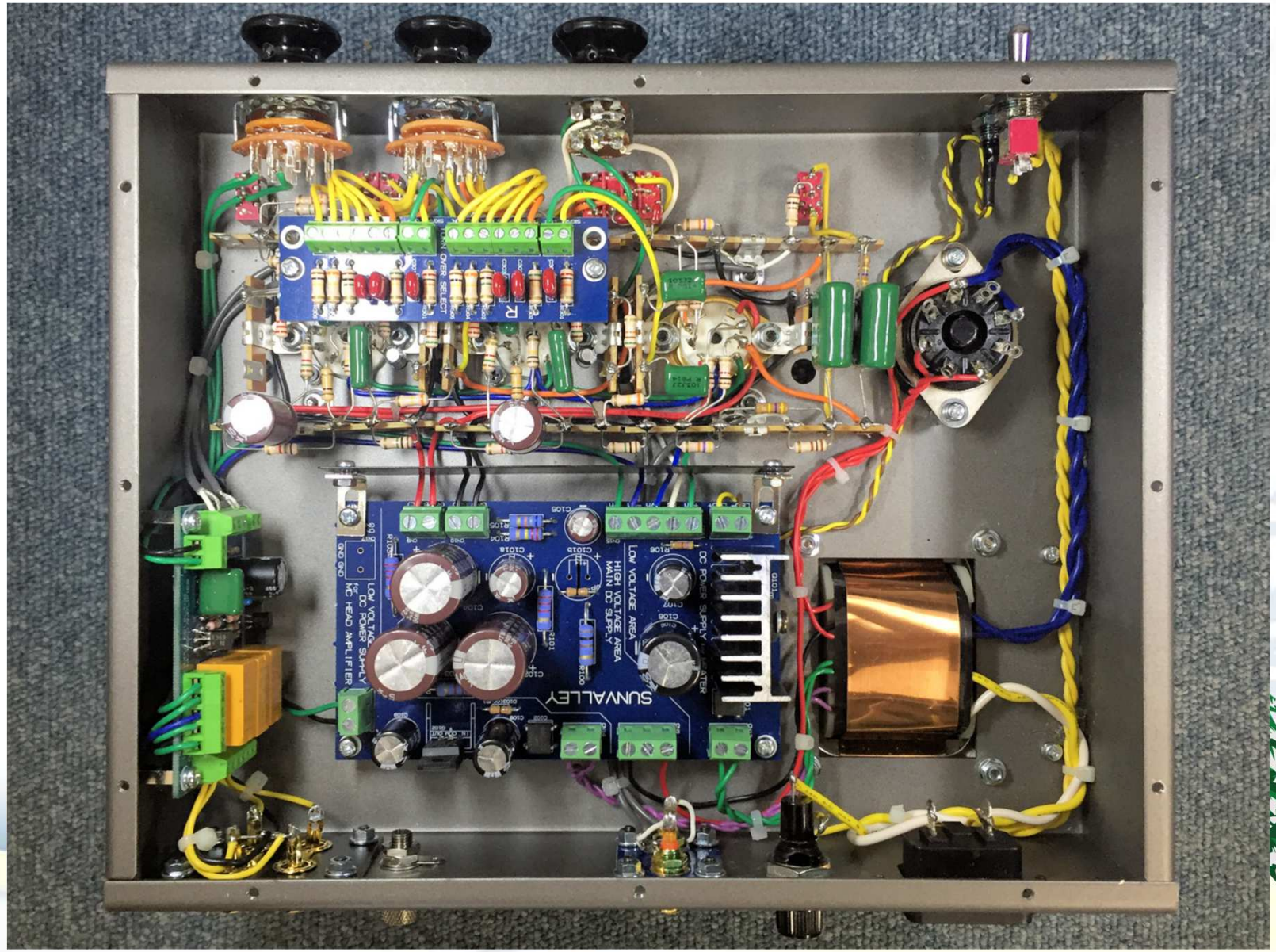
・高域ロールオフ調整：ON/OFF選択式(ON時：連続可変)
※ON時：連続可変(主要EQカーブに対応), OFF時：減衰なし(SP盤用)

SV-EQ1616D 仕様

SV-EQ1616D/各種EQカーブ



SV-EQ1616D内部（1）



SV-EQ1616D操作方法(1)

カートリッジ選択　　ターンオーバー　　ロールオフ

[カートリッジ選択]
使用するカートリッジに最適なポジションを選択します。

MM　適合インピーダンス47kΩ
MC　適合インピーダンス20Ω～50Ω

※MC入力は内蔵のFETヘッドアンプで簡易的に22dB(約12倍)の昇圧を行っています。高級MCカートリッジでは別途昇圧トランスをお使いいただきMM入力に接続することをお奨めします。

[ターンオーバー]
再生するソースの録音特性に合致した低域特性を選択します。

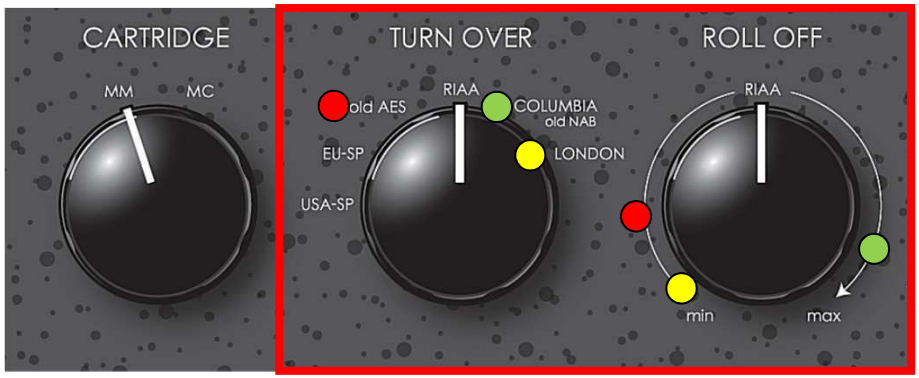
※本機は基準周波数1kHzにおける各EQカーブのゲインを一致させています。
一方で市販のマルチカーブ対応のEQでは各カーブで1kHzのゲインが2dB以上変化するものが散見されます。

「AESは音が前に張り出してくる」、「LONDONは低域が雄大だ」などといった感覚的差異は
EQカーブ以上にゲインの違いによって起こっていることが多く注意が必要です。

本機は忠実なEQカーブに加え各カーブの1kHzゲインを一致させていますので正確な設定が可能です。

SV-EQ1616D操作方法(2)

カートリッジ選択　　ターンオーバー　　ロールオフ



[ロール オフ]

	標準特性@10kHz	対RIAA相対値@10kHz
RIAA	-14dB	-
COLUMBIA/old NAB	-16dB	−2dB
old AES	-12dB	+2dB
LONDON	-11dB	+3.5dB
EU-SP	0	-
USA-SP	0	-

”標準特性@10kHz”は1kHzのレスポンスからの減衰値を示す

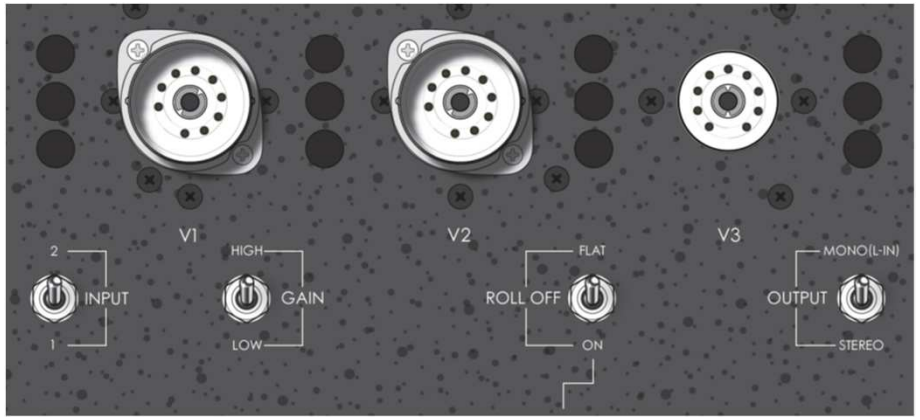
再生するソースの録音特性に合致した高域特性に調整します。
可変範囲はRIAA基準で＋3.5dB(min), -2.5dB(max)です。

※ロールオフは1kHz以上の周波数特性を各EQカーブに合致させるための機能で厳密に規格化されており、本来はターンオーバー同様、連続可変でなく選択式とすべきです。一方で私どもの調査ならびに試聴の結果、同一EQカーブ(ex RIAA)であっても録音年代, レーベルによってかなり特性上ならびに音質上の差異があることが分かっています。

※規格上の最適ロールオフ位置は上図のセンター(RIAA),●(old AES), ●(COLUMBIA/old NAB), ●(LONDON)で示した位置ですが、録音年代, レーベル, カートリッジ, 昇圧トランス等により僅かに高域を上げたい(下げたい)という微妙な調整を可能にするため敢えて連続可変としました。

※SP盤再生の際はシャーシ上面のロールオフ切替スイッチを“FLAT” とするのが原則ですが、各種条件によっては敢えて“ON”とすることが聴感上有効な場合もあります。詳細は次ページを参照下さい。

SV-EQ1616D操作方法(3)



入力選択　ゲイン選択　ロールオフ選択　ステレオ/モノ出力選択

[入力選択]
ツインアームのターンテーブルあるいは2台のターンテーブルを使用する際に入力を選択します。

[ゲイン選択]
標準は“LOW”ポジション(ゲイン31dB)を選択します。カートリッジの出力電圧が低い場合、増幅系のゲインが不足する場合は“HIGH”ポジション(+4dB)を選択します。

[ロールオフ選択]
LP再生時は“ON”、SP盤再生時(USA-SP, EU-SP)は“FLAT”を選択します。

※SP盤再生の際はシャーシ上面のロールオフ切替スイッチを“FLAT”位置とするのが規格上は正しいですが、盤質が悪くサーフェスノイズが大きい場合や録音年代によっては意図的にロールオフをONとしてmin位置にアジャストすることで高域の尖鋭感が適度に抑えられサーフェスノイズが抑制される場合がありますので適宜ご活用下さい。

[ステレオ/モノ出力選択]
ステレオ盤を再生する場合は“STEREO”を選択します。モノラル盤をステレオ再生(左右同時出力)できる環境がある場合も“STEREO”を選択します。モノラル再生専用ターンテーブルでカートリッジ出力が1チャンネルしかない場合は“MONO”を選びLチャンネルに入力します。“MONO”を選択するとデュアルモノ出力(Lchに入力した信号がL/R両チャンネルから出力)となります。

※ステレオ盤で“MONO”を選択するとLチャンネルに入力された信号のみが両チャンネルから出力されますのでご注意ください。

SV-EQ1616D操作方法(4)

ヒューズホルダー　出力端子　　アース端子　　入力端子

[ヒューズホルダー]
ヒューズはいかなる場合においても定格(2A)をご使用下さい。

[出力端子]
イコライジング後の信号出力端子です。出力インピーダンスは約600Ωでプリアンプ(またはプリメインアンプ)のLINE入力に接続します(PHONO入力に接続しないよう注意して下さい)。

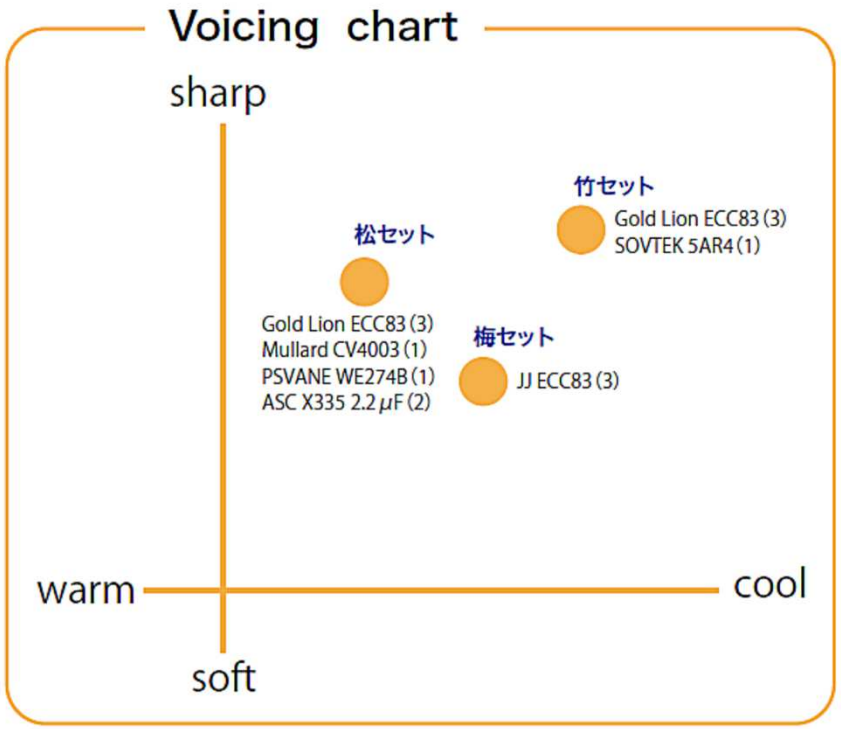
[アース端子]
ターンテーブルから出ているアース線を接続します。昇圧トランスを経由してMCカートリッジを使用する場合はターンテーブル/昇圧トランス/本機が共通アースされるのが基本です。

※接続完了後スピーカーから大きな“ブーン”または“ジー”音が聞こえる場合はアースが浮いている可能性があります。また接続が正常であっても過大なノイズが発生する場合はキット組立に問題がある可能性があります。

[入力端子]
本機は2系統の入力端子を装備しています。電気的には同一ですので1系統の入力しか使わない場合はどちらを選択しても問題ありません。

※モノラル再生専用ターンテーブルでカートリッジ出力が1チャンネルしかない場合はシャーシ上面のステレオ/モノ出力選択で“MONO”を選び入力のLチャンネルに入力します(前ページ参照)。

SV-EQ1616D 真空管の組合せと音質



[真空管の選択]

V1/V2: 12AX7 / ECC83 のみ

※12AU7系, 12AT7系は使用できません。

V3: 12AX7 / ECC83
12AU7 / ECC82
12AT7 / ECC81 が使用可能

※音色は変化しますが特性(ゲイン, 周波数特性等)に大きな差異はありません。

※差替えにあたり調整は不要ですが増幅特性は同一でもヒーター定格の異なる真空管(ex CV4068等)を使用することは出来ません。

※V1/V2は残留ノイズに敏感ですので真空管によってはSNが悪化する場合がありますのでご注意ください。

V4:標準/ダイオードモジュール,
オプション/5AR4,274B,5R4,5U4,5Y3が使用可能

※音色は変化しますが特性(ゲイン, 周波数特性等)に大きな差異はありません。

[松/竹/梅の音質差]

(梅セット)
JJ ECC83S/12AX7 ×3
スタンダードな組み合わせ。癖のなさが魅力

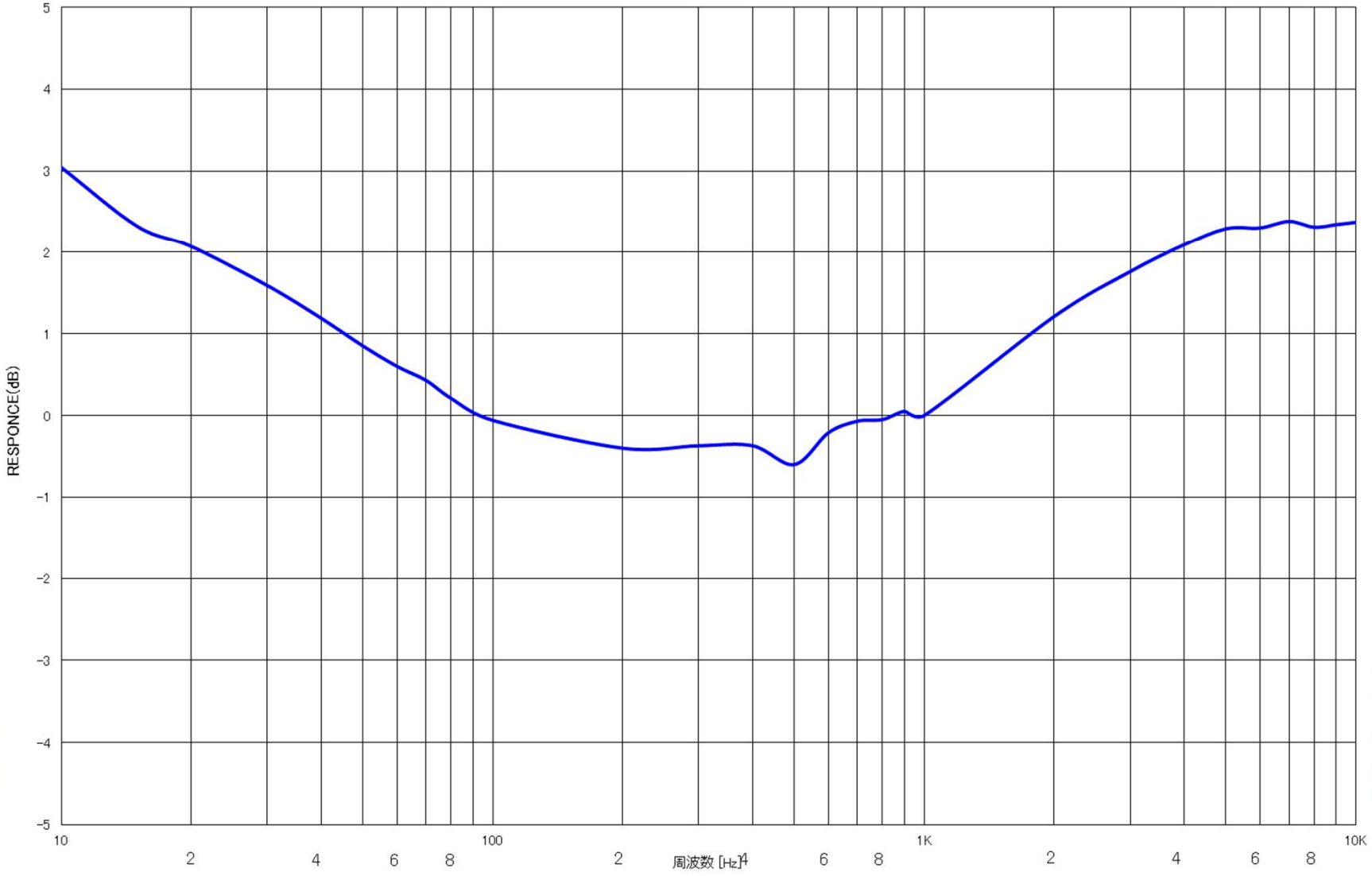
(竹セット)
Gold Lion ECC83/12AX7 ×3
SOVTEK 5AR4 ×1
中域に力感をプラス。ガッツあるサウンド

(松セット)
Gold Lion ECC83/12AX7 ×2
Mullard CV4003/M8136(12AU7) ×1
PSVANE WE274B ×1
ASC X335 2.2uF[2個] ×1
鮮度感+実体感+重心の低さ。極上のレンジ感と倍音感

SV-EQ1616D 参考資料(EQカーブによる差異)①

[COLUMBIA / old NAB のLPをRIAAカーブで再生した場合の周波数偏差]

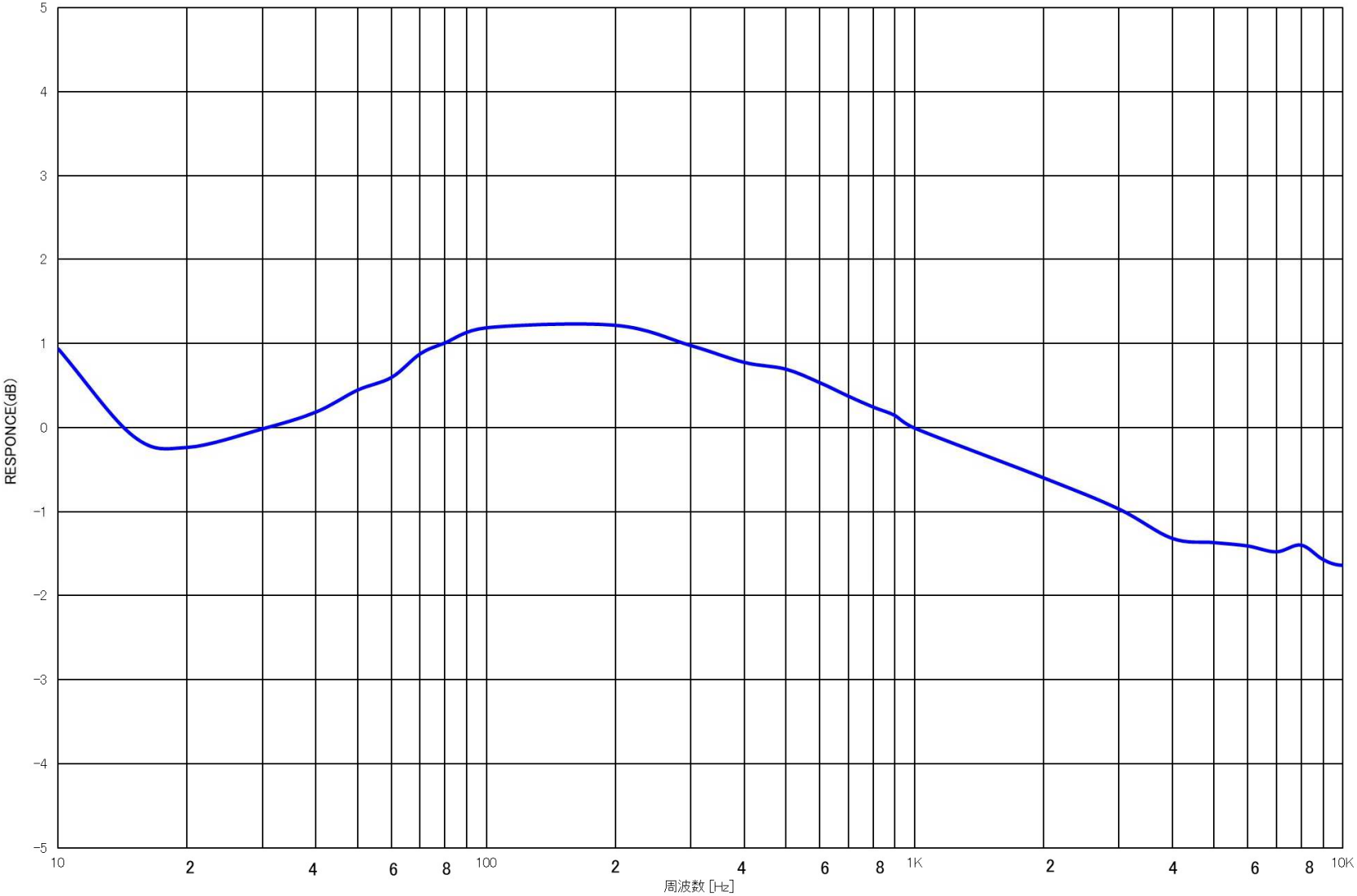
実機測定データからグラフ化(1kHz=0dB) 真空管: すべて12AX7, 整流段: ダイオードモジュール



SV-EQ1616D 参考資料(EQカーブによる差異)②

[old AES のLPをRIAAカーブで再生した場合の周波数偏差]

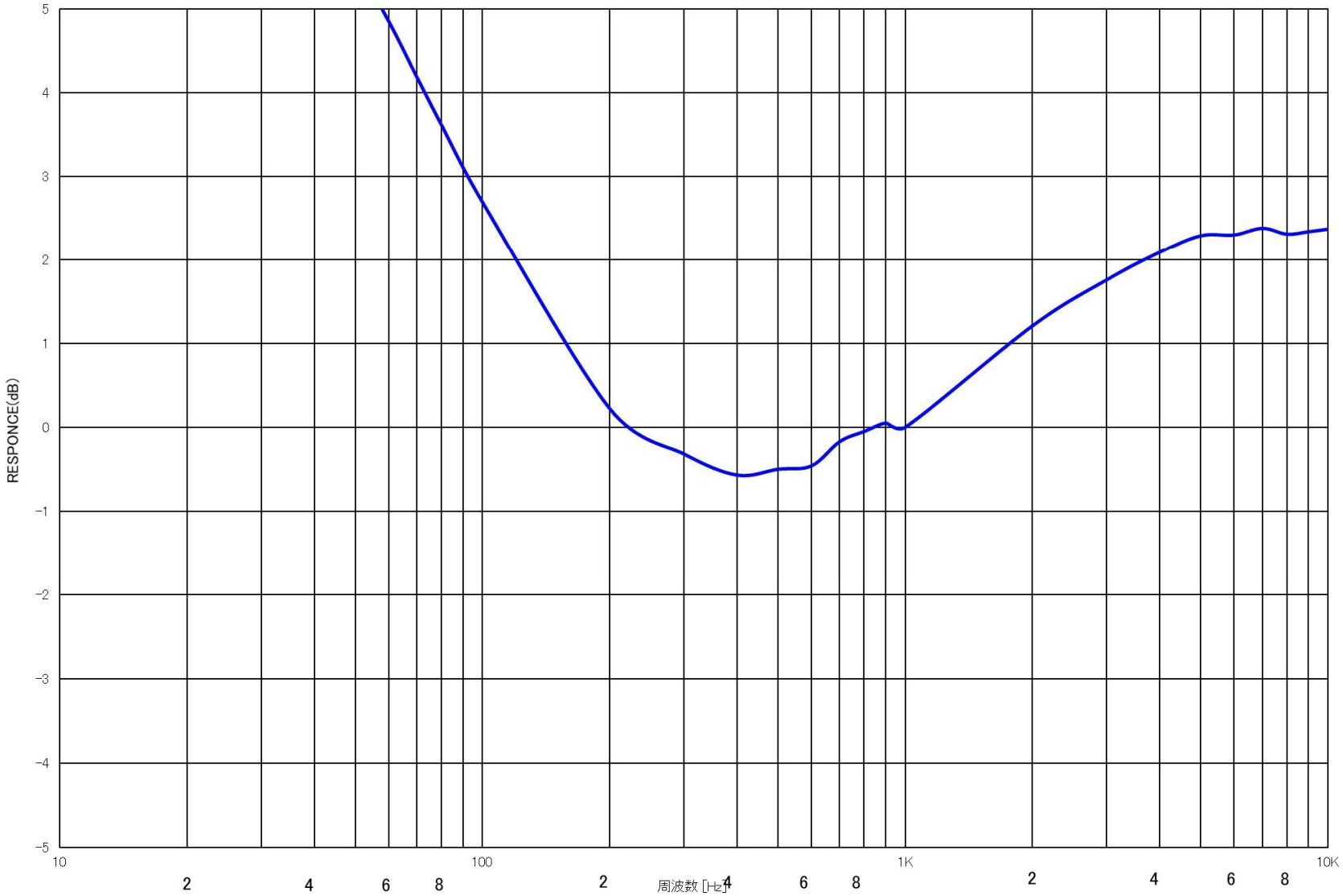
実機測定データからグラフ化(1kHz=0dB) 真空管: すべて12AX7, 整流段: ダイオードモジュール



SV-EQ1616D 参考資料(EQカーブによる差異)③

[LONDON のLPをRIAAカーブで再生した場合の周波数偏差]

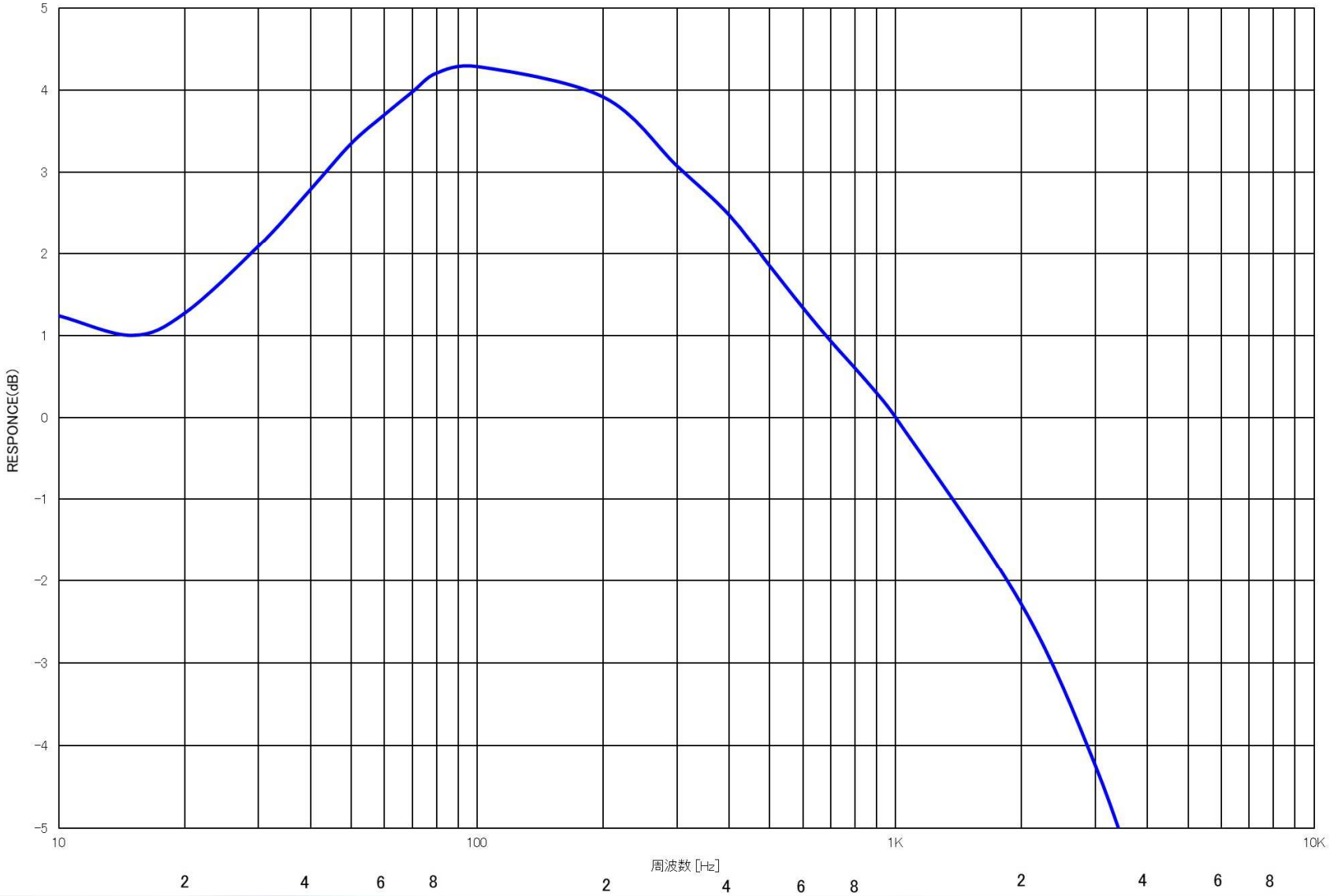
実機測定データからグラフ化(1kHz=0dB) 真空管: すべて12AX7, 整流段: ダイオードモジュール



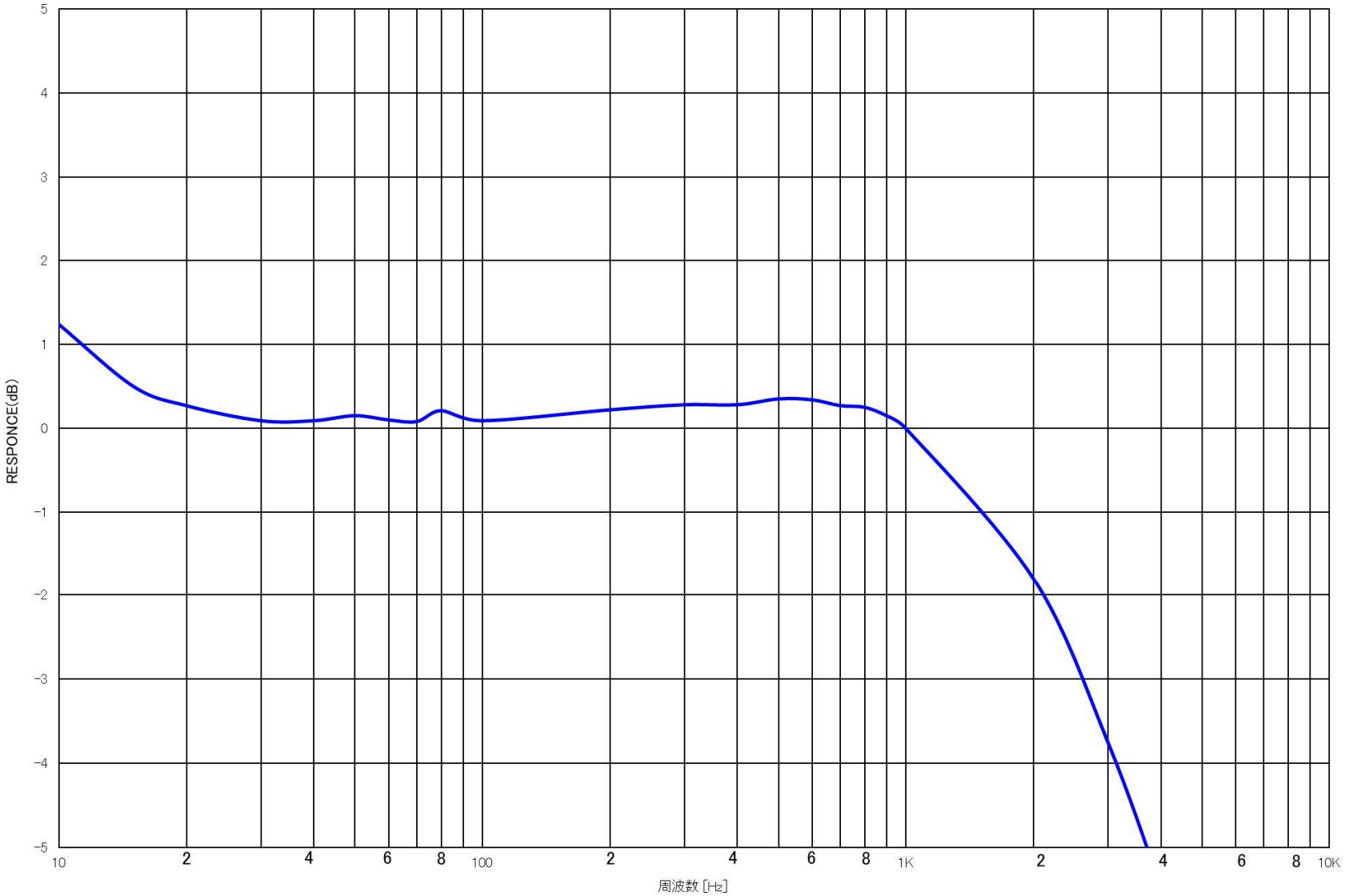
SV-EQ1616D 参考資料(EQカーブによる差異)④

[EU-SP(欧州系SP盤)をRIAAカーブで再生した場合の周波数偏差]

実機測定データからグラフ化(1kHz=0dB) 真空管: すべて12AX7, 整流段: ダイオードモジュール



SV-EQ1616D 参考資料(EQカーブによる差異)⑤

[USA-SP(米国系SP盤)をRIAAカーブで再生した場合の周波数偏差]

実機測定データからグラフ化(1kHz=0dB) 真空管: すべて12AX7, 整流段: ダイオードモジュール